

## 第2回宮津地区将来構想策定検討委員会 会議録

日時：令和2年10月20日（火）午後1時30分から午後3時10分

場所：大矢野庁舎書庫棟2階会議室

出席者：村田委員長、花房委員、寺本委員、嶋元委員、静谷委員、村上委員（竹口委員の代理）、古谷委員、林委員、何川委員、星野委員、福田委員、大瀬委員、関係課長、開発プロジェクト推進課職員（事務局）、受託者（株式会社環境デザイン機構）

欠席者：高橋委員、田中委員、松本委員、水野委員、北岡委員

### 1 開会（事務局）

### 2 委員長挨拶

村田委員長：本日は、お忙しい中、第2回宮津地区将来構想策定検討委員会に御出席いただき感謝申し上げます。

まず、前回の会議を振り返ると、宮津地区における施設間の動線の悪さやイベント時以外の公園の利用率の低さ等が課題として挙げられた。

また、新たに整備される新大矢野図書館に対する意見も多くあり、図書館に行きたいと思わせる工夫や図書館と周辺既存施設との連携も重要であるといった意見があった。

宮津地区の在り方については、新型コロナウイルスによるこれからの観光の在り方や前島地区との差別化を図る観点から、「日常づかいの観光」をコンセプトとして、委員から宮津地区は地元のコンテンツと観光のコンテンツが入り混じっている中で、地元の人と観光客が交流できるエリアが構築されれば、地元の人が地域の魅力を伝えたり、観光施設を案内する等、良い循環が生まれるという意見があった。

本日は、将来構想の骨子案やゾーニングの検討について議題で予定されており、将来構想を策定する上で重要な内容になるので、委員の皆さまから、忌憚のないご意見を賜りたい。

### 3 議事

#### （1）宮津地区将来構想の骨子案について（株式会社環境デザイン機構）

※資料①に基づき説明。

#### （2）ゾーニングの検討について（株式会社環境デザイン機構）

※資料②に基づき説明。（会議終了後、資料は回収）

福田委員：4点質問があり、1点目がこの構想のエリアに水産研究センターも含まれているが、水産研究センターは今も観光客は行っているのか。また、気軽に行けるような場所なのか。

2点目がこの構想は、移住者を増やすことと、住んでいる人をより良くすることの両方を満たすということの良いのか。

3点目がそれぞれの施設が整備され、施設の統一感がないという話があったが、そもそもなぜ統一感が必要なのか。また、統一感で成功している事例等があれば教えていただきたい。

4点目が資料①の4土地利用の方針の検討のところになるが、ケース1の既存施設の活用した場合とあるが、このケースは、新大矢野図書館も含んだところで考えて良いのか。

村田委員長：水産研究センターは、事前の申し込みをすれば施設の見学等は可能だったと思う。

花房委員：補足になるが、水産研究センターは、観光施設とは異なり、あくまでも研究機関である。しかしながら、村田委員長が言われたように事前に申し込みをすれば、生け簀や水槽の魚への餌やり体験や施設の見学は可能である。

事務局(光瀬)：2点目のご質問に対してだが、この将来構想は魅力的なエリアを作るということを目的にしているので、人口が減少している市において、将来構想を起点に今後、移住施策等に反映できればと思うが、どのように展開していくかの詳細については、別途検討していきたいと考えている。

次に3点目のご質問に対してだが、これまで前島地区等における国立公園内の整備を行ってきた中で、調和やバランス等の統一感があった方が景観としては良い場合もあるので、検討事項として資料に記載している。なお、施設の統一感による具体的な成功事例等については把握していない。

最後に4点目のご質問に対してだが、新大矢野図書館については、建設場所も決定しているので、ケース1における既存施設の活用には、新大矢野図書館も含んだところでご検討いただきたいと考えている。

花房委員：補足になるが、統一感による成功例というほどでもないかもしれないが、阿蘇熊本空港の周辺には民間の駐車場が多くあり、10年ぐらい前までは、看板の色づかいも派手で景観が悪かった時期がある。その対策として、行政が補助金を出して、看板の色づかい等を統一したケースがあり、今は、空港線の看板の色づかいは、ほとんど統一され、観光客にとっても昔のキラキラした嫌なエリアという印象はほとんど無くなったのかと思う。そのような観点から外から来られる観光客にとって、色の使い方やデザインの統一というのは、ある意味、落ち着きや安心感をもたらすことに繋がるかもしれないと思っている。

寺本委員：4点ほど確認させていただきたいが、1点目が資料②にある拡張期の話は必要

ないのではないかと思います。非常にハードルの高い話で、今の段階において、検討することは現実的ではない。

2点目は同じく資料②の話になるが、さんぱーのゾーニング変更案について、案では現行の駐車場と建物の位置を反対にすることになっているが、その配置にすると駐車場が見えないし、お客さんは入りにくいと思う。やはり駐車場に車が止まっている状況を見て、賑わっているから入ろうかなという心理になると思う。

3点目が説明にあった陸橋は必要だと思う。動線を確保する上で、陸橋は必要な整備になる。

4点目が私自身、よく宮津地区を散歩しているが道しるべとなるようなもの、例えば目的地まであと何メートルとかの表示があれば非常に良いと思う。観光客にとっても、何メートル先に行けば観光施設があるということが分かれば、行ってみようかなと気持ちになる。

事務局(光瀬)：拡張期は不要ではないかという点については、ご指摘のとおり。消防署も新しくなって、これから警察署も新しく整備される中において、先々、建物を移すということは、採算性もなく、非効率的なことであるが、拡張期を示した資料については、土地利用の様々なイメージを持ってもらえるよう記載させていただいた。

次にさんぱーの建物や駐車場の位置等についてもご指摘のとおりで、今後将来構想を策定していく中で、どのような在り方が良いかを参考にさせていただきながら進めていければと思っている。

次に陸橋の話については、様々な方から必要との意見を頂いているため、実現できるような体制を構築していきたいと考えている。

最後にサインの統一性や見やすさというのは、宮津地区に限定したのではなく、観光振興を推進していく以上、上天草市のイメージが定着するようなデザイン化を図っていく必要があると考えている。

静谷委員：構想ということで、10年、20年のスパンで検討されているが、これから人口も減少していく中で、財政的に不安がある。この構想における財政上のシミュレーションは行われているか。

事務局(光瀬)：この将来構想を策定する上で、財政上のシミュレーションは行っていない。

古谷委員：緊急動線の確保についての説明があったが、消防署の立場から言えば大賛成である。現状として出動時は、9割方ガソリンスタンドがある交差点から国道に出しており、約1分～2分程度かかっている。ゾーニング案に示されているように、さんぱー横に新たな緊急出動用の動線ができれば、40秒程度短縮でき、その分早く現場に到着することが可能になるため、救命率や初期消火も向上する。

荒木補佐：この件に係る対応については、この場で即答はできないが、消防本部をはじめ、関係機関等と協議を行いながら進めて参りたい。

何川委員：将来構想の骨子案について御説明いただき、人が集まるような素晴らしい構想になると感じたが、決定的に駐車場が足りないと思う。車社会のため、観光客等は間違いなく車で来られる。さんぱーは現在、146台止められるスペースを確保しており、創業祭やエビリンピック等のイベント時には、裏の広場を利用して、臨時的に160台前後止められる場所を確保しているが、それでもいっぱい状況。これから人を集める取組みを推進していくのであれば、やはり駐車場の確保が必要になってくると思う。

南阿蘇村の道の駅「あそ望の郷くぎの」は、ここ1、2年くらいで村と協議しながら新たに駐車場を整備していると聞いている。

人を受け入れる体制を行うには、まず駐車場の課題が出てくるため、そのような現状も考慮して取組みを行っていただければと思う。

事務局（光瀬）：駐車場の確保に当たっては、この将来構想が現実味を帯びる前までには、検討しておく必要があると考えている。

星野委員：前回の会議において、公園の利用者が少ないと説明があったので、公園を中心に施設が連携していく「シーサイドリビング」の考えはとても魅力的だと感じた。

先程の説明の中で、人が集まる取組みとして、公園に素敵なソファを置いたり、日除けを置いたりする事例を見せてもらったが、個人的には、椅子とかソファがなくても、知名度があれば人は集まるのかなと感じており、今後、PRする方法等も考えていったら良いのではと思った。

あと、雨が降った時に上天草の魅力は7割減すると思っており、海とか風景とかを売りにするのは大事だが、雨の時でも人が来てくれる仕組みを考えていく必要があると感じた。

事務局（光瀬）：ご提案いただき感謝する。引き続き検討していく。

福田委員：資料①の2宮津地区の将来像において、出会い交流するという文言があるが、これは、どこか場所を指しているのか、それともイベント等をやって行って交流する機会を増やすということか。

事務局（光瀬）：具体的にというより、場所や機会も含んだところで抽象的に捉えていただけたらと思う。

花房委員：委員の皆さまにお聞きしたいのが、サインや案内等を整備して回遊性の向上に

向けた議論があっているかと思うが、実際、さんばーからスパタラソ天草まで行く距離感として、車で行く距離感と歩いて行く距離感のどちらの方が感覚的に近いとお聞きしたい。

嶋元委員：スパタラソ天草の利用者はほとんど車で移動していると思う。

星野委員：歩いて行くのは、夏は暑いのと、高齢者の方々にとっては、坂があるのできつ  
いと思う。

何川委員：観光客からスパタラソ天草の場所について尋ねられた時に、高台にあって歩いて行けることを伝えたが、車で行くのと返答があった。歩いて行かれる方はほとんどいないのではないかな。

福田委員：先程の話にもあったように、あと何メートルとか、あと何分のような表示があれば、歩いて行けるとか行ってみようかなという気持ちになるかもしれない。

寺本委員：山登りでも、現在地が何合目とか山頂まであと何メートルとかの表示あるため、そのように視覚化してあげるだけでも、観光客は利用しやすいし、回遊性は増すのではないかなと思う。

### (3) 土地利用の条件による将来構想の評価比較（事務局）

※資料③に基づき説明。（会議終了後、資料は回収）

事務局（松本）：資料①で説明を行った土地利用における3つのケースについて、今後の宮津地区の在り方を検討する上でどのケースが適しているか点数付けをお願いしたい。  
記入後は、事務局で回収し、次回会議時に集計結果を発表する。

## 4 その他（事務局）

事務局（松本）：第3回の会議を11月24日（火）午後1時30分から書庫棟2階会議室で開催するので、御出席をお願いします。

本検討委員会の活動内容を市民にもお知らせするため、議事録等を市のHPで掲載したいと考えているが、発言者名等はそのまま記載して良いか。

各委員：問題ない。

## 5 閉会（村田委員長）